

雲蝶 作品コーナー

雲蝶作品を紹介します。

らんま どうげんぜんじ はくさんだいごんげん
 欄間 一道元禅師と白山大権現 (西福寺開山堂)



開山堂正面に3点ある透かし彫りの欄間の一つ。雲蝶が技の粋を打ち込んだ作品で、木目の美しさを生かした繊細かつ巧妙な彫刻。道元禅師が中国の宋での修行を終えて日本へ帰国する前夜、経典「碧岩録」を急いで写経していると、白山権現が一老翁となって現れ写経を手助けし、帰国の乗船に間に合うように加護している様子。遠近法を用いた技法で部屋の中を立体的に奥行き深く表現しています。机の前には燭台、奥には火鉢に湯釜が彫られています。

石川雲蝶の軌跡 (本成寺落慶)

内山又蔵さんの悲願だった本成寺の造営も終わり、時代は明治になっていました。雲蝶さんは三条で、おくにさんという女性と結婚し、子どもも二人いました。落慶法要では僧侶や又蔵さんとともに雲蝶さんも参列しました。晴れやかな場所には縁がなかった雲蝶さんも、家族とともに完成の喜びを味わうことができ、夢のようなひとときになりました。

「又蔵さん、三条に呼んでくれて本当にありがとう。おくにさんとのあいだもとりもって来て、感謝のしようがない」雲蝶さんは感謝の意をこめて、又蔵さんに東方朔の像を贈ったのでした。 (文・イラスト 高橋郁丸)



雲蝶さんと
本成寺

よもやま話

雲蝶
時空を超えて
会いに行く

200
UN
CHO

雲蝶生誕200周年を記念し、栃尾ボランティアガイドクラブ主催の「宮彫り」の魅力を紹介する講演会が、アオーレ長岡で9月に開かれました。雲蝶作品のパネル展示や栃尾の食文化フェアも併催され、栃尾の油揚げやワインなど心ひかれるものが沢山ありました。



栃尾は油揚げなど食だけではなく、雲蝶作品も魅力的で、何度も足を運んでいます。また南魚沼にも足を運び、雲蝶の作品巡りをしてきました。彫りの深い立体感のある作品には迫力を感じます。

雲蝶は、栃尾や南北魚沼、三条等に作品を残していますが、その移動手段は徒歩だったと言われています。

各地を巡って雲蝶の足取りを想像し、その地に訪れて歴史や文化を感じ、当時に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。(T)

雲蝶
ごぼれ話

☆本成寺落慶法要では、雲蝶があられ袴をつけて僧侶と参列する姿はとても凛々しかったと言い伝えられています。

☆東方朔の像の裏には、雲蝶の手形が彫られており、雲蝶の実像をたどることができます。